

浅間山

火山活動評価：静穏な状況（レベル 1）

火山活動は静穏に経過しました。

現在の火山活動度レベルは 1 です。平成 18 年 9 月 22 日以降、レベル 1 が継続しています。

概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2、表 1）

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、噴煙高度は火口縁上 100～200m で推移しました。

20 日に実施した観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 90～240 t で前月（11 月 30 日 130～250 t/日）と同程度で、やや少ない状態が続いています。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 3、図 5、表 1）

火山性地震は、1 日あたりの回数が 5～21 回と増減を繰返しながらやや少ない状態で経過しています。発生した地震の多くは、周期の長い特徴を持つ BL 型地震（波形例は図 5 参照）で、震源は求まっていますが山頂火口直下のごく浅いところに発生していると推定されます。このほか、周期の短い特徴を持つ BH 型地震（波形例は図 5 参照）が発生しており、求まった震源はこれまで同様に山頂直下の深さ約 1～3 km に分布していました。また、A 型地震（波形例は図 5 参照）も山頂直下の深さ約 3 km 付近に 2 回発生しています。

火山性微動は 1 日あたりの日回数が 0～2 回（月回数 14 回）とやや多い状態で経過しましたが、いずれも振幅の小さなものでした。

・地殻変動の状況（図 2）

山体周辺の GPS 連続観測では、特段の変化はありませんでした。このほか、傾斜観測¹⁾ や光波測距観測²⁾ でも、火山活動の高まりを示すような変化はありませんでした。

1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により、山体が膨張・収縮した場合に変化が観測されることがある。

2) 光波距離計を用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器。火山体直下へのマグマの注入等により、山体が膨張・収縮した場合に距離の変化が観測されることがある。



図 1 浅間山 山頂部の噴煙の状況
(12 月 29 日、追分遠望カメラによる)

この資料は気象庁のほか、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所、東京大学、独立行政法人産業技術総合研究所及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ(標高)』を使用しています(承認番号：平 17 総使、第 503 号)。

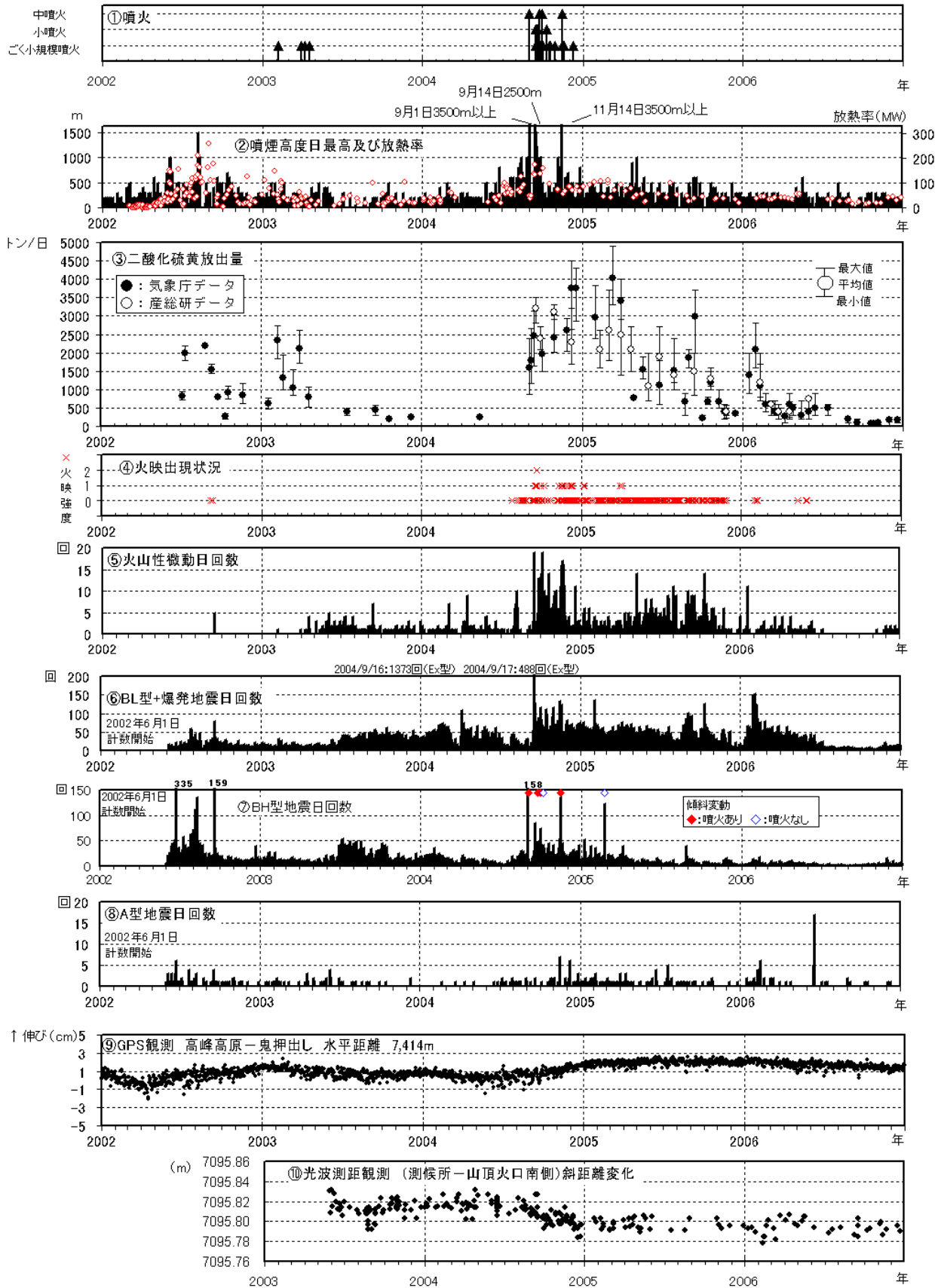


図2 浅間山 最近の火山活動の推移（2002年1月～2006年12月）
地震の種類別（図5参照）に計数を開始した2002年6月1日からのデータを掲載しています。

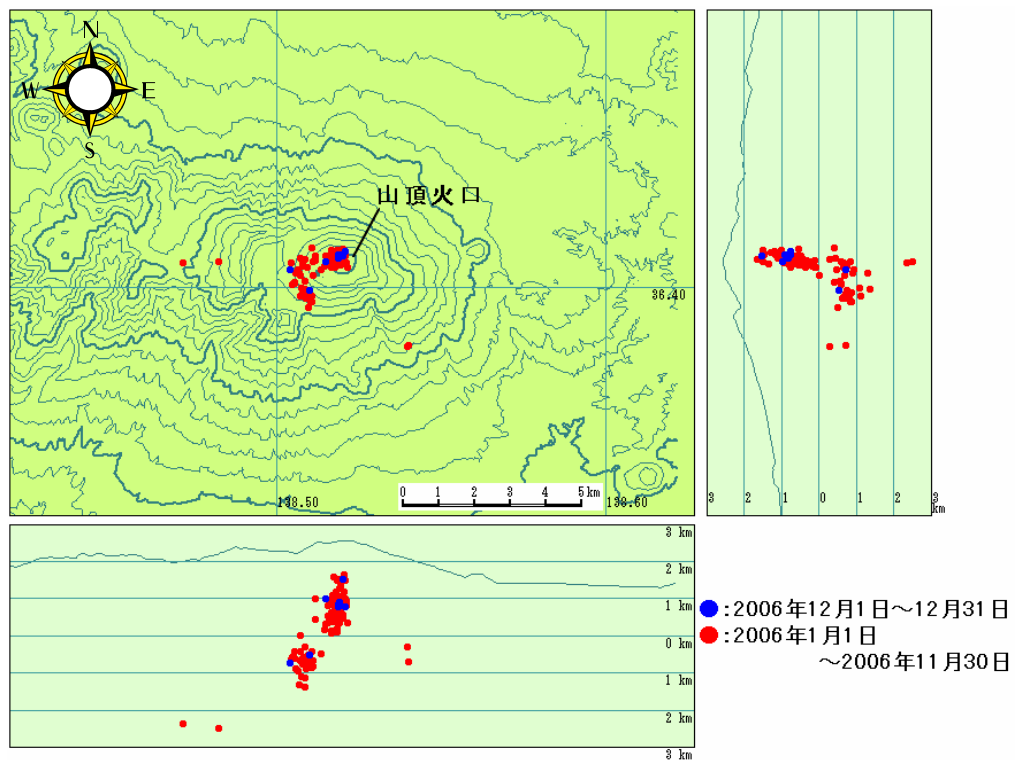


図3 浅間山 火山性地震の震源分布（2006年1月1日～2006年12月31日）

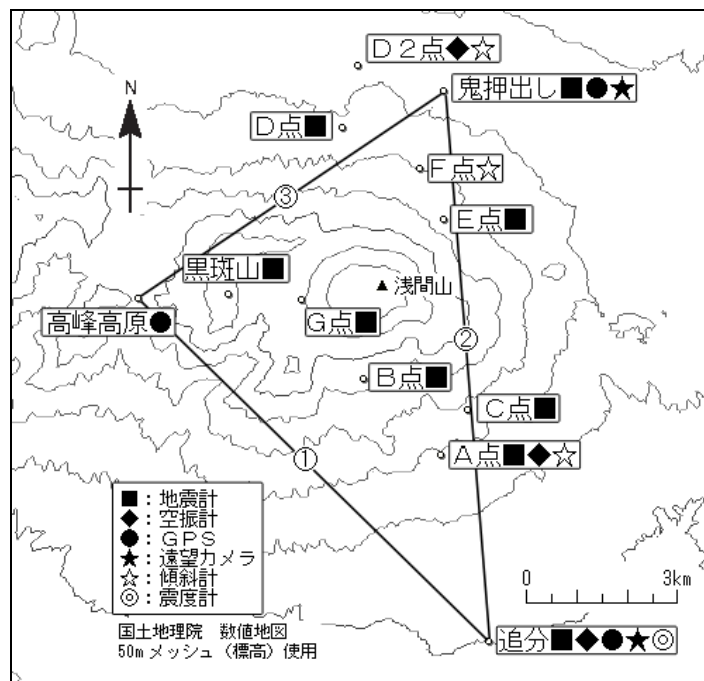


図4 浅間山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）

表1 浅間山 2006年12月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震の回数 ³⁾						微動回数	噴煙の状況 ⁴⁾		火映強度 ⁵⁾	備考
		A型	BH型	BL型	Ex型	その他	地震合計		日最高(m)	噴煙量		
1日	0	0	5	11	0	0	16	0	100	1	-	
2日	0	0	7	8	0	0	15	0	X	X	X	
3日	0	1	3	5	0	1	10	1	X	X	-	
4日	0	0	4	12	0	0	16	0	X	X	-	
5日	0	0	3	13	0	0	16	1	200	1	-	
6日	0	0	1	12	0	0	13	0	100	1	-	
7日	0	0	2	7	0	0	9	0	200	X	-	
8日	0	1	6	12	0	0	19	0	X	X	X	
9日	0	0	6	6	0	0	12	1	X	X	-	
10日	0	0	1	11	0	0	12	0	200	1	-	
11日	0	0	11	9	0	0	20	0	200	1	-	
12日	0	0	10	6	0	0	16	2	X	X	-	
13日	0	0	3	12	0	0	15	0	100	1	-	
14日	0	0	3	12	0	0	15	1	X	X	-	
15日	0	0	3	15	0	0	18	1	100	1	X	
16日	0	0	5	13	0	0	18	0	100	1	-	
17日	0	0	6	8	0	0	14	1	X	X	-	
18日	0	0	0	9	0	0	9	0	200	1	-	
19日	0	0	3	13	0	0	16	0	100	1	-	
20日	0	0	0	9	0	0	9	1	200	1	-	SO2放出量:90~240t/日
21日	0	0	3	14	0	0	17	0	100	X	-	
22日	0	0	3	8	0	0	11	2	200	1	-	
23日	0	0	5	10	0	0	15	0	100	1	-	
24日	0	0	1	15	0	0	16	1	100	1	-	
25日	0	0	7	14	0	0	21	1	200	1	-	
26日	0	0	2	14	0	0	16	1	X	X	X	
27日	0	0	0	5	0	0	5	0	X	X	-	
28日	0	0	1	15	0	0	16	0	X	X	-	
29日	0	0	3	10	0	0	13	0	200	1	-	
30日	0	0	9	10	0	0	19	0	200	1	-	
31日	0	0	3	12	0	0	15	0	100	1	-	
合計	0	2	119	330	0	1	452	14				

3) 火山性地震の計数基準はB点振幅0.1µm以上でS-P時間3秒以内、火山性地震の種類は以下のとおりです。

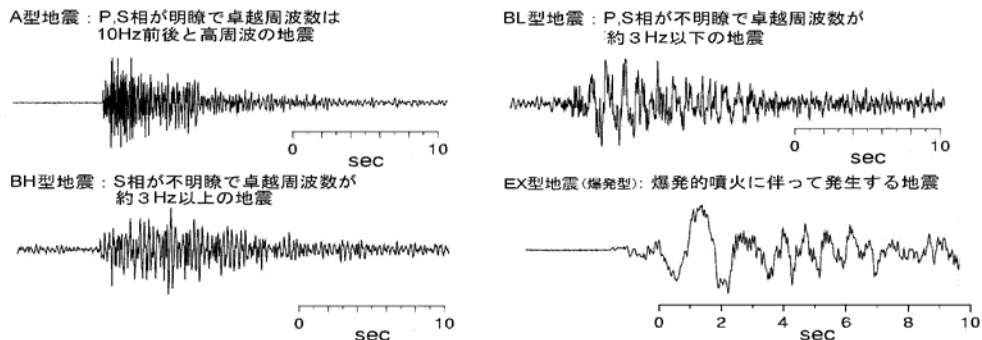


図5 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

4) 噴煙の高さと噴煙量は定時観測(09時・15時)の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。

- 1:極めて少量 2:少量 3:中量 4:やや多量 5:多量 6:極めて多量
7:噴煙量6以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる

5) 火映の強度は以下の4段階で観測しています。

- 0:肉眼では確認できず、高感度カメラのみ確認できる程度 1:肉眼でようやく認められる程度
2:肉眼で明らかに認められる程度 3:肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度
-:火映なし x:視程不良(終日観測できなかった場合)